

タイ語コーパス TNC を利用した談話分析に基づく khâa-taay (殺す-死ぬ) 事象の考察

タイ語の動詞には必須項がなく、定・不定の形態的区別もないため、動詞句連続構文が成立する。例えば khâa (殺す) 動詞句と taay (死ぬ) 動詞句も、(1)-(3) (Thai National Corpus (TNC)より) のように、接続形式を介さず結び付く。

- (1) phôo m̄e thùuk thaháan ?india khâa taay
 父 母 受動 兵士 インド 殺す 死ぬ
 両親は「インド兵士が殺して死ぬ」という事態を被った
- (2) m̄ua maanóp khâa yák taay léew ...
 時 マーノップ(人名) 殺す 鬼 死ぬ 完了
 マーノップが鬼を殺して死んだとき、...
- (3) piisàat winyaan ráay s̄ip s̄oŋ ton s̄uŋ khâa mây taay
 悪霊 12 類別 関係 殺す 否定 死ぬ
殺して死なない 12 の悪霊

khâa (殺す) 動詞句あるいは taay (死ぬ) 動詞句のどちらかだけを含む(4)-(6)のような表現もある。(1)-(3)の動詞句連続も(4)-(6)の単一動詞句も、どちらも単一の節を成し、まとまりのある1つの事象を表す。

- (4) phôo m̄e thùuk thaháan ?india khâa
 父 母 受動 兵士 インド 殺す
 両親は「インド兵士が殺す」という事態を被った
- (5) m̄ua maanóp khâa yák léew ...
 時 マーノップ(人名) 殺す 鬼 完了
 マーノップが鬼を殺したとき、...
- (6) piisàat winyaan ráay s̄ip s̄oŋ ton s̄uŋ mây taay
 悪霊 12 類別 関係 否定 死ぬ
死なない 12 の悪霊

(1)-(3)は一見、(4)-(6)に比べ、冗長あるいは非論理的に見える。(1)-(3)のような khâa-taay (殺す-死ぬ) 動詞句連続構文(「khâa-taay 構文」と呼ぶ)が成立する要因について、タイ語研究者の意見は一致しない(e.g. 坂本 1985, 峰岸 2007, 上原&Thepkanjana 2009)。実際の談話資料から khâa-taay 構文を多数集めて分析した先行研究もない。

(1)-(3)のような一見冗長あるいは非論理的な khâa-taay 構文がなぜ存在するのか、その答えを追求する唯一の方法は、実際の使用例をもとに、khâa-taay 構文が表す事象概念(「khâa-taay 事象」と呼ぶ)を成り立たせている「意味フレーム」(Fillmore 1982)がどのようなものであるのかを探ることである。折りしも昨年、大規模なタイ語電子コーパス Thai National Corpus (TNC)が公開された。そこで khâa-taay

事象の意味フレームについて TNC の談話資料を用いて分析してみることにした。本発表ではその分析結果を報告する。

まず TNC の検索機能を利用して、(1)-(3)のような khâa-taay (殺す-死ぬ) 構文、(4)(5)のような khâa (殺す) 構文、(6)のような taay (死ぬ) 構文を含む談話の断片をそれぞれ 100 ずつ抽出した。Croft 2009 に倣い、項名詞句だけに注目するのではなく、付属語句・副詞表現や節の構造にも注目し、さらに談話文脈を重視して言語使用者の発話意図や解釈のあり方をも読み取りながら、各構文が表す事象概念について一般化を試みた。その結果、khâa-taay 事象には次のような特徴があることがわかった。

使役連鎖を構成する原因(殺す行為)、変化(死ぬ変化)、状態(死んだ状態)のすべてを含むが、原因が背景化され、変化と状態が前景化されている。

このように khâa-taay 事象は、使役連鎖の形(具体的な物理フレーム)と使役連鎖を構成する副事象の前景化・背景化の様相(抽象的な焦点フレーム)という点において、khâa 事象および taay 事象と異なる特徴を持つ。

タイ語話者が khâa-taay 構文を使う動機については次のように説明できる。

一般に、殺す行為の生起を前提あるいは仮定として(背景事象として)、死ぬのか、死なないのかという結果を問題としたい(前景化したい)ときに khâa-taay 構文は使われる。

死ぬという結果が前景化されるのは、特に被害意識が強いときである。死にたくないあるいは死なせたくないという意向に反して死ぬという結果が生起してしまったことを表すために khâa-taay 構文は使われる(例文(1))。

殺す企ての成功あるいは失敗を表すときも、死ぬあるいは死なないという結果が前景化される。殺したいという希望が叶って死ぬという結果が実現すること、あるいは、その希望が叶わず死ぬという結果が実現しないことを表すために khâa-taay 構文は使われる(例文(2)(3))。

<参考文献>

- Croft, William. 2009. Connecting frames and constructions: A case study of *eat* and *feed*. *Constructions and Frames* 1:1, 7-28.
- Fillmore, Charles J. 1982. Frame semantics. In The Linguistic Society of Korea (ed.) *Linguistics in the Morning Calm*, 111-137. Seoul: Hanshin.
- 坂本比奈子. 1985. 「タイ語の動詞の下位分類について」『アジア・アフリカ言語文化研究』30, 177-192.
- 峰岸真琴. 2007. 「孤立語の他動性と随意性」角田三枝・他(編)『他動性の通言語的研究』, 205-216. くろしお出版.
- 上原聡・Kingkarn Thepkanjana. 2009. 「タイ語における結果構文」小野尚之(編)『結果構文のタイポロジー』, 365-406. ひつじ書房.

<コーパス>

Thai National Corpus (TNC) [<http://www.arts.chula.ac.th/tnc2/>]